

# 船橋市社会科セミナー通信 第130号

## 7.14土 報告

勉強会会場はいつもの「プラウド・ター-船橋」。

今回の出席者は、会場担当で事務局長の大野 肇先生(習志野四中)・佐藤一巳(前原小)・大久保徹(南本町小)・谷川一仁(南本町小)・石森靖敏(南本町小)

藤木信弘(大穴北小)・武井剛(古和釜小)・野宮典子(若松中)の各先生と会長の池田(習志野台中で初任者指導)の**合計9名**。今回は残念ながら目標の10名に達することができませんでした。

併せて今回で、**24関中社研&千社研に向けた「授業力向上勉強会」の29回目を行いました。**



## 1本目: 学び合いの進め方

池田義光

本年11月8日(木)の関中社研&千社研船橋大会が迫って参りました。船橋提案は3本柱をもとに社会参画力を育成することですが、その一つの柱が「学び合い」であることは周知のことだと思います。

池田が「学び合い」について、夏休み中の習志野四中の校内研修会の講師として、「学び合い、そして高め合う集団づくり」について話すことになりましたので、当セミナーのみなさんに聞いていただくとそのリハーサルを行いました。 ↓以下、紙面の関係でだいぶ省略。

### [1]私と「学び合い」研究

#### 1. 船橋市教育委員会指導主事時代

(1)現場の授業から学ぶ (2)東大の佐藤学教授の「学びの共同体」

#### 2. 中学校での実践研究 高根台中学校と行田中学校で研究奨励校として

#### 3. 船橋市の社会科の実践研究

(1)船橋市総合教育センターの社会科学研究委員会です3年間

(2)24関プロ中学校社会科学研究大会の千葉県(船橋)大会(平成24年11月8日)の柱

### [2]「学び合い」について

#### 1. 「学び合い」とは? =学習者どうしの交流から学びが生まれること

(1)「学習」と「学び」を区別 (2)「学び合い」をめざす学習を「学び合い学習」と呼ぶ

#### 2. 様々な学習

「学び合い学習」「(全員)一斉学習」「個別学習」など、どれも重要

#### 3. 様々な「学び合い学習」がある

#### 4. 「学び合い」と「話し合い」と「教え合い」

#### 5. 「学び合い」と「協力」と「分担」

### [3]「学び合い」研究をして

#### 1. 佐藤学氏の「学びの共同体」

(1)全員が公開授業 (2)年4回は校外へ公開 (3)一役一人制 (4)保護者の学習参加

#### 2. 高根台中・行田中で

(1)課題: グループで4つ以上か4人全員か? ⇒4人全員の方が「学び合い」が生まれやすい

(2)大きな課題と小さな課題 ⇒大きな課題の方が「学び合い」が生まれやすい

(3)グループ内の人間関係に大切な役は? ⇒つなぎ役

(4)中三で分度器の使い方を訊いた生徒がいた ⇒「学び合い学習」だったから

(5)水泳(カール)の授業で ⇒「学び合い」で効果が上がった。「師匠」が喜んだ

(6)教師がよかれと思ってしていることでも

#### 4. 教師の指導力の向上

(1)机間指導の違い 個別指導の机間指導とグループ学習の机間指導

(2)ねらいに応じて指導法を組み合わせる

## 5. 生徒に好評

- ①級友の考えや意見を聞くのはいいことだ(86%)
- ②級友から自分の気付かないことを教えてもらえる(78%)
- ③学び合いで級友と仲良くなれる(78%)
- ④他人の良さに気付くことができる(77%)
- ⑤学び合いを入れると勉強しやすい(72%)
- ⑥他人と知恵を出し合うと、いい考えができる(70%)
- ⑦話し合ったり教え合ったりすることがおもしろい(70%)
- ⑧質問されることが自分のためになる(70%)

### [4]「学び合い」の指導方法

#### 1. できるだけ毎時間「学び合い学習」を！(まずやること)

「学び合い学習」は何時でもどこでも誰でもできるが、「学び合い」は深い。

#### 2. なぜ「聞き合い」「伝え合い」を重視するのか

- (1)「訊く」指導を！ (2)「聴く」指導を！ (3)「伝える」指導を！

#### 3. 「質問・確認型の学び合い」と「寄せ合い・深化型の学び合い」

- (1)「質問・確認型の学び合い」の指導 互いに質問したり確かめ合ったり、教え合ったりする  
(2)「寄せ合い・深化型の学び合い」の指導 知識や知恵を寄せ合ったり深め合ったりする

#### 4. グループ学び合い学習の進め方

- ①グループ学習の人数 (3～)4人が最適。
- ②グループ学習の隊形 4人グループで「田の字型」「風車型」「T字型」が考えられる。  
かざぐるま
- ③グループ学習のねらい(2つ)
  - a. 互いに質問したり確かめ合ったり、教え合ったりする(質問・確認型)
  - b. 知識や知恵を寄せ合ったり深め合ったりする(寄せ合い・深化型)
- ④グループ内でリーダーや司会などの役割分担は必要か? →
- ⑤「グループ」と「班」の区別 →「学び合い」では全ての個人に「学び」が成立することが肝心。「班学習」と違ってまとまりを求める必要がない。グループで考えが一致しなくても全員に学びがあればいいのである。
- ⑥グループ学習中の教師の指導 → 全員が「聞いているか」「話しているか」。「グループ学習」のねらい達成に向けて指導・支援する必要がある。
- ⑦授業の何時「グループ学習」をするのがよいか →何時でもよい
  - a. 質問がしたい状況(全体説明後で個別作業前、個別作業後)
  - b. 学習が難しくなった(主に1時間の授業の後半)
  - c. 協同作業をさせたい場面
  - d. 個人差が大きくなった場合
  - e. その他
- ⑧グループ学習をすると露わになるのは?

## 5. 全体学び合い学習の進め方

### (1)3段階の指導

- ①他の児童生徒から学ばせる段階  
○生徒に出番を与える ○他の生徒には「聴く」指導
- ②発言をつなぐ段階  
○教師は司会役で生徒をつなぐ ○生徒には「つなぐ」指導
- ③学びを深める段階

### (2)コの字隊形が最適

- (最初から「コの字隊形」と、必要なときに「コの字隊形」)
- a. 生徒同士が向き合うので全体で話し合う、学び合うという雰囲気になりやすい。
  - b. 発表者が正面黒板前に行かないで自席で発表しても、他者からはそこが正面のような意識になれる。
  - c. 教師が移動しやすいので、生徒のつぶやきを拾うためやその生徒に注目させるために近づくなどして、「学び合い」を支援しやすい。

## [5]中学校での「学び合い」研究の進め方

### 1. 「学び合い」研究のねらい ⇒ 学力の向上と人間関係の向上

### 2. 「学び合い」研究に対する考え方

- (1)研究と研修を区別 (2)授業改善の研究 (3)日常改善の研究 (4)学校改善の研究 (5)腰を据えた研究 (6)無理なく取り組める研究 (7)生徒・保護者の理解と支持を得ながら進める研究 (8)教育委員会の支援を受けて、他校へ普及できる研究

### 3. 研究の具体的な方法

- (1) 全教科・領域において、「学び合い」を取り入れた授業実践をする（短学活・学級活動・道徳でも「聞き合い・伝え合い」や「学び合い」のできる人間関係づくりをする）  
⇒行事や部活など授業外でも奨励
- (2) 生徒・保護者の理解と支持を得るために、様々な場を活用する
- (3) 全員が年間1回以上の授業研究を行う（学年別か教科別のいずれか）
- (4) 学年別VTR授業研究☆
  - ①[事前]
 

指導案は、本時案に「本時の学び合い」を記述。本時展開に「学び合い」の欄を設ける  
指導案には必ず座席表を記述(特にグループ名と境界)

事前検討は学年会で、本時案を基に20～30分程度。VTR撮影の仕方を確認
  - ②[研究授業]
 

空き時間の教師は必ず授業参加。担当がVTR撮影。講師はふさわしい人物がいなければ
  - ③[事後検討]
    - 1) 授業者から、本時授業の流れ、本時のねらいとその達成状況
    - 2) 授業VTRをストップモーション方式で視聴
    - 3) 本時授業から、学び合いについて見えてきたこと。今後の課題（授業、研究）

※学年単位の研究授業実施すると、⇒生徒が見えてくる
- (5) 教科別授業研究
  - ①ねらいは、「学び合い」中心に教科全体の指導力の向上
  - ②指導案は精案で、「本時の学び合い」や本時展開に「学び合い」の欄を設ける。
  - ③「学び合い」を中心に全体について、外部講師から指導を受ける。
- (6) 校内全体研究会を、研究機会の核とする
- (7) 他校（特に「学びの共同体」研究校：小学館から佐藤学氏の本）からも学ぶ
- (8) 自校の実態把握をして、研究に生かす

## [6]むすび

### 1. とにかく全員が「学び合い」指導を積み重ねること

実践を考察する中から進展と新たな課題が見えてくる⇒学び合う仲間づくり

### 2. 「学び合い」の学校づくり

生徒どうしの「学び合い」 + 生徒と教師の「学び合い」 + 教師どうしの「学び合い」  
⇒「学び合い」が合い言葉に！！

## 2本目：授業DVD「千葉県の農業～千産千消」（前回と同じ）

前回DVDを観られた人数が少なくてもったいなかったので再度視聴！

大野肇先生（習志野四中）

昨年、習志野第四中学校の公開研究日には約200名の参観者がありました。そのとき大野肇先生は栄養教諭とTTを行い、農家の方をゲストティーチャーに招いて、社会科と食育の両方のねらいをもった授業を公開しました。当日は文部科学省の教科調査官が大野先生の授業の一部始終を参観し、全国の教師向けDVDを作成するために、ビデオカメラが三台入り、大野先生はピンマイクを付けるという状況の中で授業を行ったということです。大野先生も何回も研究授業は行っているが、今までで最も緊張を強いられた授業だったそうです。（それはそうでしょう！）

その授業を約30分に編集したDVD（市販用）が完成したので、大野先生に贈られてきたということで、今回はその貴重なDVDをセミナーで視聴しながら報告してくれました。

### 大野肇先生の学習指導案

単元名：地域の規模に応じた調査～千葉県を多面的に調べよう～  
本時題材：千葉県の農業「千産千消」について考えよう

### DVDの授業展開

☆「導入」の指導の手立てと留意点

- ①前時に学習した近郊農業の自然条件や社会条件を簡単に振り返り、本時の学習活動を確認する。
- ②キーワード「千産千消」に関しては板書だけでなく、実際に使われている「のぼり」を示す。

☆展開1

- ①習志野四中付近の畑とその作物の写真を見せる（ゲストティーチャーの畑の写真も）
- ②給食メニューの材料に千葉県産が多数あること、栄養教諭が実物を提示しながら確認する
- ③「地産地消（千産千消）」にどんな利点があるか、班ごとに話し合いを行い、考えさせる

☆展開2

- ①班での学び合いの後で、フードマイレージのことで地域ブランドのことを、栄養教諭が補足する
- ②農家の方が生産者の立場から「地産地消（千産千消）」の利点について補足する。

☆まとめ

- ①今日の授業の感想をノートに書かせて発表させる。
- ②食物を大切に、食物の生産にかかわる人々への感謝の意思を持てるように意識づける。

DVDを見て (省略)

## 3本目:授業における「見通し」と「振り返り」の指導について

大野肇先生(習志野四中)

前述のように、習志野第四中学校では、昨年度3年研究の最終年を終了しました。

研究主題「確かな学力の育成～生活習慣と学習習慣を基盤とした基礎・基本の定着をめざして～」を達成するために「生徒に学習の「見通し」を持たせ「振り返り」を重視することで、基礎・基本の定着が高まり、「確かな学力」が育成されるであろう」という研究仮説を立て、全教科で標題に取り組んで来たとのことです。

大野先生たちが社会科として、実際にどのように取り組んだかを本セミナーで報告してくれました。この実践により、習志野四中の社会科の学力は、県平均以下から県平均以上に向上したとのことです。

【研究内容】「見通し」と「振り返り」の指導の実際

- ①生徒が主体的に学習活動に取り組めるように、単元毎に学習目標や内容を示した「学習見通し表」を作成し、学習内容を適切に自己評価していく。
- ②生徒が学習課題に主体的に取り組み、社会的事象を多面的にとらえ、思考力を深めることができるように、様々な「振り返り」の活動を工夫する。
- ③ワークによる復習や単元テストや小テストを取り入れることで、振り返りを促し、基礎・基本の定着を図る。

【「見通し」と「振り返り」の考え方】 千葉大教授、伊坂淳一先生の指導

- ①生徒にとって「見通し」は、課題に対して自分なりの仮説を持つことであり、「振り返り」は学んだことや考えたことについて確かめることである。
- ②授業の導入の場面で「学習の「見通し」を立てる活動」を、展開の場面で「見通し」をもとに筋道を立てて考えたり観察・実験をしたりする活動」を、まとめの場面で「学習内容や学習活動、更に学習の「見通し」の「振り返り」を行う活動を、といった学習過程の工夫を教科の特性に応じて行うことが大切である。
- ③「見通し」の持ち方について、「ア 知識・技能確認型」「イ 関心意欲喚起型」「ウ 課題意識喚起型」「エ 自己評価型」「オ 課題解決予想型」「カ 活用課題先行提示型」に分類し、それぞれに応じた「振り返り」の方策を用いて指導にあたること。

【社会科の「見通し」と「振り返り」】

- ①見通しの持ち方分類は、アとオ
- ②「学習見通し表」の項目は「目標」「学習課題」「基礎基本(覚える語句)」「考えたこと、分かったこと」「4段階自己評価」。「学習見通し表」を使って、見通しと振り返りを行う。

※池田の感想

単元毎の「学習見通し表」を作成するのは、実は大変な作業だがさすが大野先生は全単元について、極めて丁寧で細やかな表を作成し、それを徹底的に活用して、単元学習の最初に学習の「見通し」を持たせ、単元の途中と最期にその表を活用したり、小テストを実施して「振り返り」をさせることをこつこつと実践することで、生徒の基礎基本の定着と学力の向上をもたらした。いつもながら大野先生のすばらしい実践と努力には頭が下がる思いである。

# 8月セミナー予定 8月4日(土)

今年も、皆川征夫先生(本セミナー名誉会長)の講演会実現!

＜勉強会＞は、プラウドタワー船橋1階入口 **3時**集合

※終了後 船橋駅周辺で 6:30頃から＜懇親会＞

⇒出欠席をできれば 2週間前までに池田宛てにお知らせください

出欠席の連絡は当方からの問い合わせの前にはいただけると助かります。 ikeyoshi.24@gmail.com



プラウドタワー(船橋北口)